

柏市生きものの多様性プラン 策定部会資料集

平成 22 年 7 月 30 日

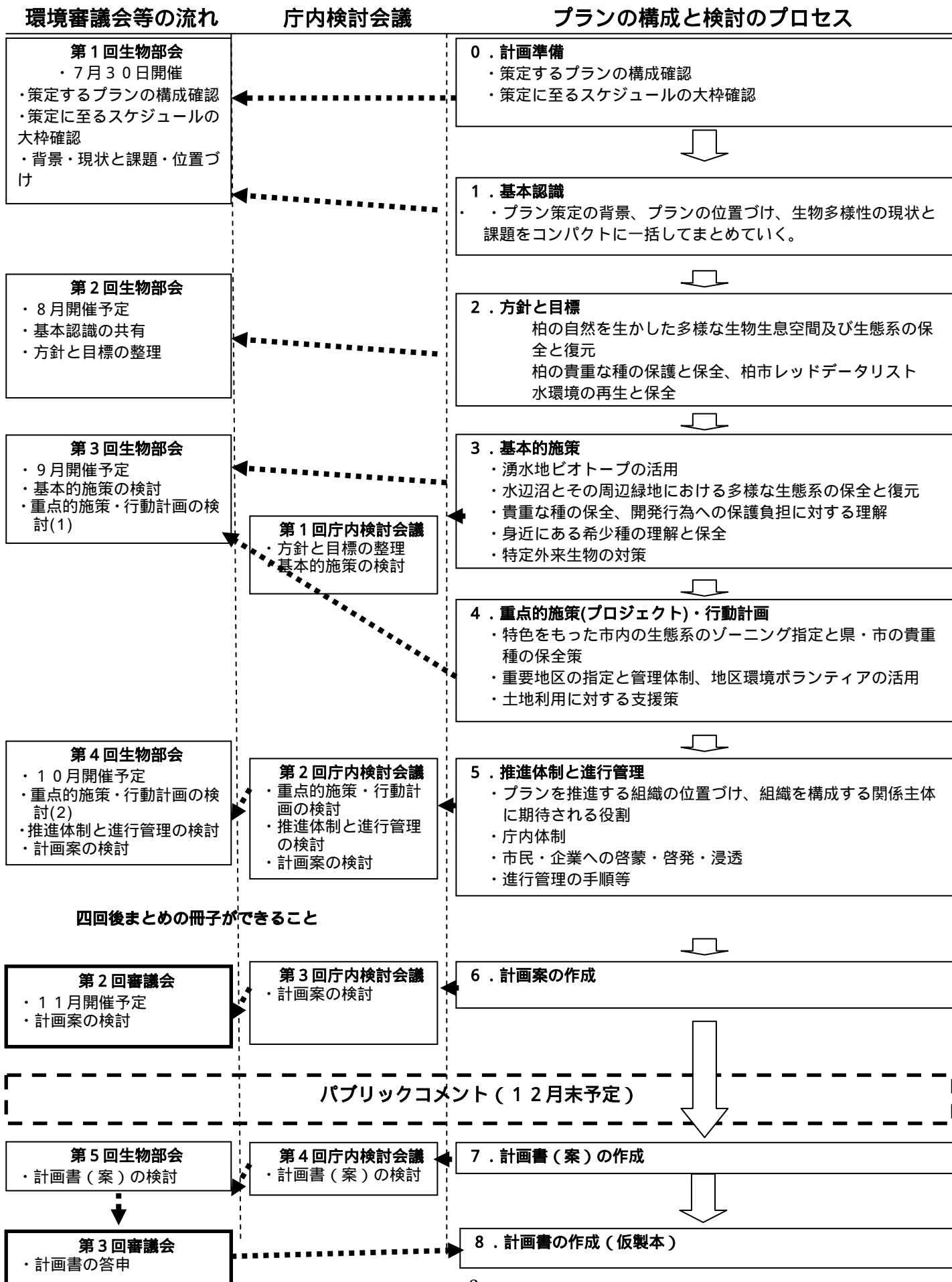
柏市環境保全課

目次

1	柏市生きもの多様性プランの構成と検討のプロセス	．．．．． 3
2	プラン策定の背景	．．．．． 4
3	プランの位置づけ	．．．．． 5
4	柏市自然環境調査から見た現状と課題	．．．．． 6
5	柏市環境審議会「生きもの多様性プラン策定部会」日程(案)	．．．．． 10

柏市生きもの多様性プラン

1 柏市生きもの多様性プランの構成と検討のプロセス



2 プラン策定の背景

地球の悠久の歴史の中で育まれてきた多種多様な生物は、それぞれが個性を持つと同時に様々な関係でつながっており、そのような生物多様性から生まれる恵みは、過去の世代から現在の世代に引き継がれてきたように、将来の世代に継承されるべきものです。

- ・国際的にも、生物の多様性に関する条約 第9回締約国会議（平成20年5月開催）で「都市・地方政府の参加促進決議」が採択されています。
- ・国内においても、生物多様性基本法（平成20年6月施行）が制定され、国の責務として生物多様性国家戦略の策定やそれに基づく取組みの推進を定めただけでなく都道府県及び市町村に対して、「生物多様性地域戦略」の策定を努力義務として定めています。これに基づき、平成20年には、千葉県が生物多様性ちば県戦略を策定しています。
- ・このような背景を踏まえ、本市においても、生物多様性の保全と回復に関する取組みが計画的に進められていくことが必要とされています。

柏市内にはまだ多くの豊かな自然環境が残されています。

- ・柏市では、平成2～3年度、平成9～10年度及び平成18～20年度に自然環境調査を実施し、自然環境資源の基礎調査、追跡調査を実施してきました。
- ・利根川や利根運河、手賀沼や手賀川そして大津川や大堀川に沿った水域や水辺の空間、その後背地には水田地帯を持ち、大青田湿地をはじめ谷津、湧水地、社寺林、屋敷林、斜面林、城跡など多様な自然環境が残っています。
- ・しかし、一方で都市化の進展に伴い開発が見込まれる本市では住宅、道路など人工化の進行により水や緑、土などの自然の喪失それに伴う身近な生きものの減少が危惧されています。
- ・身近な自然や多種多様な生きものとの共存は、私たちにとって快適な生活環境を構成する大切な要素であり、将来にわたって柏の豊かな自然環境や生きもの多様性を保全していく必要があります。

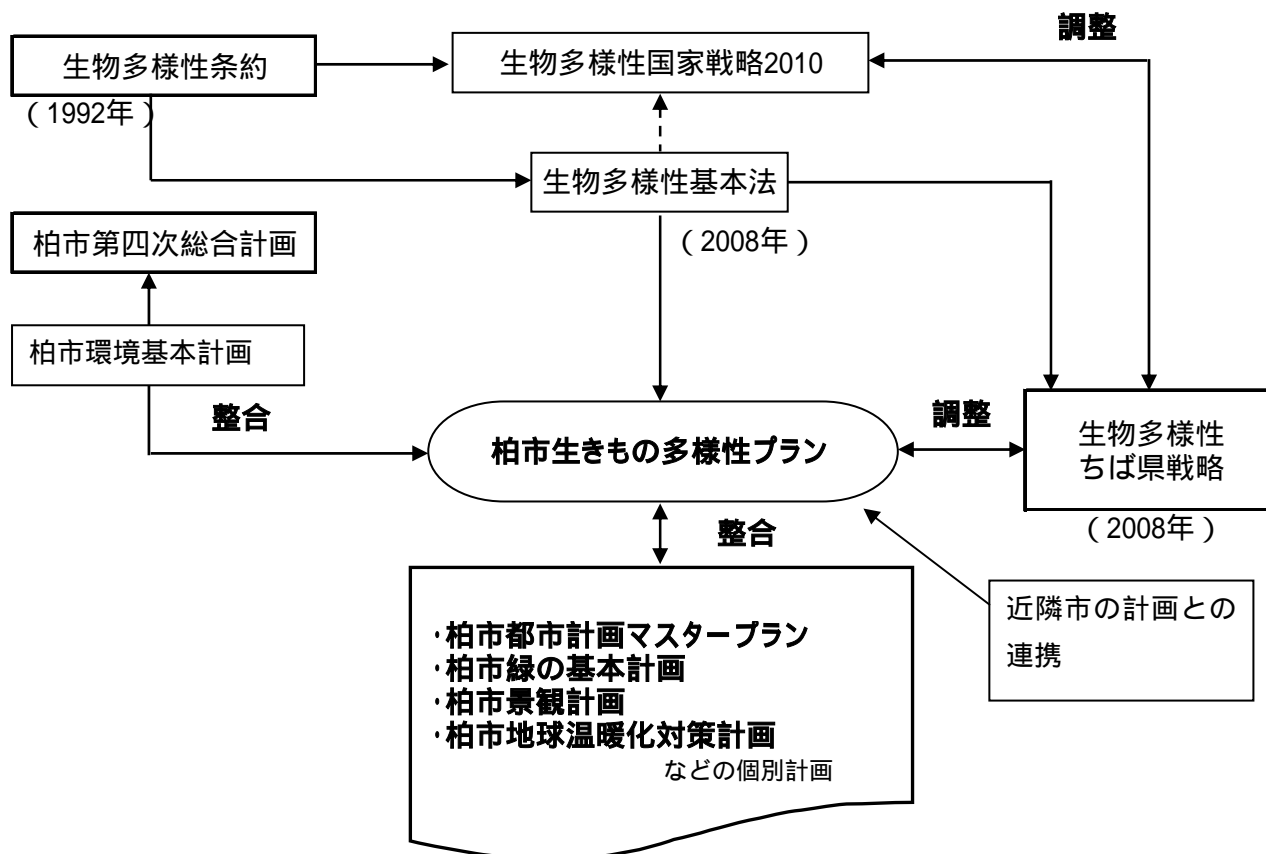
本プランの目的はこれらのともすれば相反する市民ニーズに応えるため、生物多様性の保全や持続可能な利用に至る目標を明らかにし、その目標に至る道筋を具体的に示すことにあります。そのためには、豊かな生物多様性を保全していくことはもちろん市民や事業者等が目標の達成を実現する「主体」として行動し、生物多様性の保全や回復に積極的に参加していく必要があります。

- ・生物多様性の保全や回復を目指して市民・市民団体、事業者、行政が一体となって協働して取組み、柏市らしい多様性プランを展開していくことが重要となります。

3 プランの位置づけ

柏市生きもの多様性プランは、生物多様性基本法第13条に基づき策定するとともに、上位計画である「柏市第四次総合計画」との整合を図ることとします。

その上で自然環境調査の結果をもとに、市内に生息・生育する多様な生きものが継続して生息・生育できる環境の保全・創造を進めていくための基本となる方策を策定していくものです。市の個別計画に対しては、本プランが柏市の自然的・社会的特性に応じた施策を効果的に展開していくための方針となることから、関連計画との整合を図ることとします。



4 柏市自然環境調査から見た現状と課題

平成 18～20 年に行われた柏市自然環境調査を基に生物多様性の現状と課題をまとめます。

1. 地域区分

柏市自然環境調査では市内を7つのエリアに分けて調査をしています。

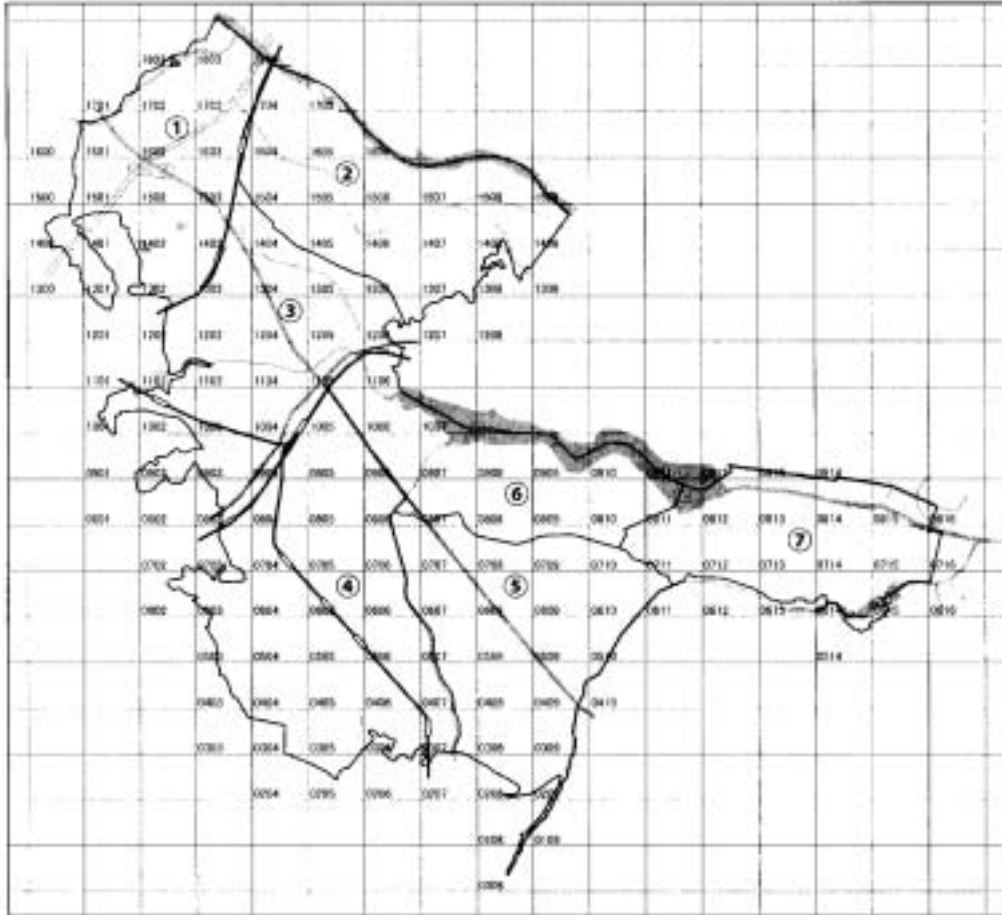


図 自然環境調査における調査区分と概要説明のための区分

これらの調査区分を現状と課題をまとめるための河川等の流域を基に、大きな地区に括りなおします。

表 調査区分と概要説明のための区分

自然環境調査における区分	概要説明のための区分
利根運河エリア	利根川・大堀川流域地区
利根川エリア	
大堀川エリア	
大津川西エリア	大津川流域地区
大津川東エリア	
手賀沼西エリア	手賀沼周辺地区
手賀沼東エリア	

柏市生きもの多様性プラン

2. 自然環境調査から見た現状と課題

本章は、当面の資料とし、更に充実させていきます。

(1) 利根川・大堀川流域地区

地区	地区の自然環境の現状	地区の自然環境の課題
利根川・大堀川流域地区	<ul style="list-style-type: none"> ・利根川、利根運河等の水域水辺を持ち、その周辺に自然度の高い湿地、樹林地、草地が広がる地域と、鉄道駅、I.C 周辺の開発地によって構成される地区である。 ・利根運河や利根川等の水辺は多様な植物と動物の豊かな生態系を形成しており、その規模の大きさから考えても、柏市内で最も重要なエリアの一つであると考えられる。 ・水辺の後背地の斜面林、屋敷林、社寺林は、水辺近くを餌場とする、ほ乳類、猛禽類や鳥類の生息域となっており、これも重要なエリアとなっている。 ・特に谷津を中心に形成されている大青田湿地等の湿地は多様な生態系を維持している重要な場所となっている。 ・大堀川地区では、市街地内にも開発から残された貴重な湿地とそれを取り囲む樹林地が一体となった地区があり、市街地内の生物多様性を維持しネットワークする貴重な自然となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・I.C.に近いことや、つくばエクスプレス開業によって、開発圧力が非常に高まっている地区であり、開発と保全のバランスの取れた計画が早急に必要である。 ・比較的平坦な地形である湿地は、開発適地でもあり、重要な湿地については早急に保全策を講じる必要がある。 ・柏市における谷津周辺の斜面林は薪炭や肥料を目的とした里山であり、人の手を入れることにより、その環境が維持されてきたが、里山としての機能を失った現代では、鬱蒼として荒れた樹林地になっているところも多く、その維持管理のあり方について検討する必要がある。 ・維持管理には、地権者や行政だけでなく、一般の市民の関与が不可欠であるが、そのためにも地域の生物多様性の重要性や、重要な緑地や生物についての意識を高めてもらう必要がある。

柏市生きもの多様性プラン

(2) 大津川流域地区

地区	地区の自然環境の現状	地区の自然環境の課題
大津川流域地区	<ul style="list-style-type: none"> ・大津川流域は、西側は市街化の進んだ地域で、屋敷林や農地が限定的に残っているだけで大きな自然地はあまり残されていない。 ・旧沼南町との境界近くに大きな谷津の名残を残す公園、神社、教育機関を中心とする自然地が残っている。 ・東側は旧沼南町で、市街化の程度は低く、比較的大きな自然地が残されている。 ・大きな河川はないが、谷津を中心として湧水のある場所も多く、それにより湿地が形成され、多様な生物が生息している場所もある。 ・社寺林や谷津の斜面林、それをつなぐ草地などの多様な環境により、多様な生物が生息している場所もある。 ・市街地内にも開発から残された貴重な湿地とそれを取り囲む樹林地が一体となった地区があり、市街地内の生物多様性を維持しネットワークする貴重な自然となっている。 ・城址などと一体的な地区もあり、地域の歴史性と一体となった場所もある。 ・一部の地域はすでに地権者の尽力によって環境保全がうまくいっている場所もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区西側の市街化の進んでいる場所では、開発圧力が非常に高まっており、開発と保全のバランスの取れた計画が早急に必要である。 ・比較的平坦な地形である谷津の湿地は、開発適地でもあり、重要な湿地については早急に保全策を講じる必要がある。 ・柏市における谷津周辺の斜面林は薪炭や肥料を目的とした里山であり、人の手を入れることにより、その環境が維持されてきたが、里山としての機能を失った現代では、鬱蒼として荒れた樹林地になっているところも多く、その維持管理のあり方について検討する必要がある。 ・維持管理には、地権者や行政だけでなく、一般の市民の関与が不可欠であるが、そのためにも地域の生物多様性の重要性や、重要な緑地や生物についての意識を高めてもらう必要がある。 ・重要な自然地については、保全だけでなく、生物多様性への関心を高めるためにも、環境学習の場として活用することを検討する必要がある。 ・地域の歴史的資源と生物多様性から見て重要な場所が重複している場所もあり、一体となった保全整備のあり方を考える必要がある。

柏市生きもの多様性プラン

(3) 手賀沼周辺地区

地区	地区の自然環境の現状	地区の自然環境の課題
手賀沼周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ・手賀沼周辺地区は手賀沼沿いの水田となっている低地部分、金山落、染入落沿いの水田となっている低地部分、複雑に入り組んだ谷津と台地によって構成されている。 ・台地部分は市街化されている部分もあるが、基本的に農地や自然地が多く残されている。 ・また台地の縁に、台地と谷津が入り組んだ地形となっている生物生態系上、重要な場所が残っている。 ・これらの谷津では湧水が多く見られ、谷津に湿地を形成し、多様な生物の生息域となっている。 ・特に地区東側は人口密度も低く、人の手が入らなくなった樹林地が台地部に残っており、自然度が高くなっている。 ・手賀沼の水生生物については、水質の改善に伴い、生存確認された生物の種類が増加し、徐々に回復傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河口部の護岸が改修され、自然度が低下しており、改修については、生物多様性の保全に配慮した計画とするよう検討する必要がある。 ・谷津周辺の斜面林の大半において、一部ないし大部分が開発により滅失しており、柏市の特徴的な自然環境が失われつつある。 ・斜面林の滅失と共に湧水が消滅しており、谷津の湿地が乾燥化し、生物多様性が失われつつある。 ・農地に耕作放棄地・休耕田が増えてきており、湿地性の植物やそこを餌場とする生物の生息に影響がでている。 ・人口の低下により、手の入らなくなった自然が荒れてきているので、里山の環境を保全するため、行政、地権者、市民の協働による里山環境保全の仕組みが必要である。 ・水生生物に対しては外来生物による在来種への悪影響が懸念されており、外来生物に対する迅速な対応（法制度なども含む）継続的な調査が必要である。

5 柏市環境審議会「生きもの多様性プラン策定部会」日程（案）

- ・ 8月以降の日程については，事務局の素案です。
- ・ 11月，2月の審議会については，別途日程を調整します。

7月30日（日） 14：00～ 教育福社会館 大会議室

8月30日（月） 部会

9月30日（木） 部会

10月26日（火） 部会

原則として，14時～16時を予定

11月 環境審議会（中間報告）

1月24日（月） 部会

2月 環境審議会（報告，答申を予定）